

晴海ふ頭の完成と発展

晴海ふ頭は、1955(昭和30)年3月17日に完成した。かつてここは、月島と同様に海だった場所だ。完成から2か月後の5月には第1回日本国際見本市が開催されている。日本経済が成長し、中央区も発展していった。

〈のびゆく街へ〉



荷物が荷あげされ、活気あふれる晴海ふ頭。



1962(昭和37)年ごろの晴海の様子。

●海の玄関

晴海ふ頭は、貿易港として、海外の貨物船も出入りするようになった。貨物だけでなく、戦後初の南極観測船「宗谷」もここから南極を目指した。その後もふ頭の開発は進み、1991(平成3)年3月に晴海客船ターミナルが完成し、船での国内外旅行の玄関口となった。現在は客船のみのターミナルとなっている。

大きな船だね。



1957(昭和32)年11月、たくさんの人に見送られ出港する「宗谷」。現在の観測船「しらせ」も晴海ふ頭で出港している。

高度成長期の中央区

昭和30年代に入ると、戦後の復興の時代が過ぎて、ちょうど高度経済成長期に入った。日本中でどんどん景気がよくなっていった。

●ビル、デパート 建設ラッシュ

中央区ではデパートやオフィスビルなど、ビル建設ラッシュにわいた。

きれいなビルが建ち並ぶ銀座通り。



●さまざまなよおし

晴海は、1955(昭和30)年5月5日に開かれた第1回東京国際見本市の会場となった。この見本市は大変な評判で、その後も続けられるようになった。第1回の晴海会場は仮の施設だったが、その後東京国際貿易センターがつくられ、第3回の見本市からここが会場となった。貿易センターは、1996(平成8)年に閉鎖されるまで、モーターショーやコミックマーケット、最新の科学技術製品などさまざまな見本市やイベントが行われた。



外国の車がたくさん出品された。



スケートリンクにもなった。

かつこいいい〜!



1962(昭和37)年ごろのモーターショーの様子。

●人口の増加



10階建ての高層アパート



5階建て14棟、10階建て1棟が最初にできた公団住宅団地で、「海が見えるアパート」「銀座に近く、港が見える」がキャッチフレーズだった。すぐ奥に東京貿易センターが見える。

もはや戦後ではない!

日本社会党 浅沼稻次郎委員長 VS 自由民主党 鳩山一郎総裁



1956(昭和31)年に発表された『経済白書』(当時の経済企画庁発行)には、経済の成長が実現され、「もはや戦後ではない」という一文が書かれた。この言葉が表すように、日本経済は急激な発展をとげた。政治の世界でも重要な時期だった。戦後、多くの政党ができたが、1955(昭和30)年、自由民主党(自民党)と日本社会党(社会党)の2つの大きな政党が誕生した。この2つの政党が対立する時代が長く続いたため、のちに「55年体制」とよばれるようになった。

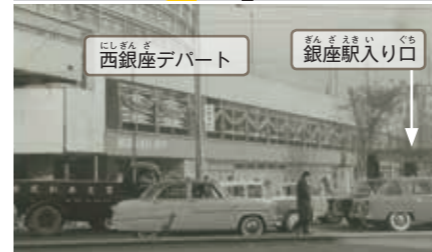
●地下鉄の開通

画像は非公開です。



1954年(昭和29)年、丸ノ内線の池袋-御茶ノ水間が開業した。その後、地下鉄各線があいついで開通した。

東京-西銀座(現・銀座駅)間開通式の様子(1957年)。



西銀座デパートと地下で直結した丸ノ内線銀座駅。地下街もこのころでけはじめた。